２００９年夏合宿　黒部川　上ノ廊下

期間：２００９年8月１２日～１７日
メンバー：田中（L）、志満、野澤（記）

去年は柳又谷へ行ったので、今年は北又谷と勝手に思っていたが、５月に膝を怪我して全てが白紙に。少し良くなった7月８日の例会で上ノ廊下の募集が出ていた。
意外と行きやすいところだよと言われ参加表明をした。本番までにしっかりトレーニングをして臨んだつもりだったが・・・。

8月11日
　相模原駅　２２：００待ち合わせ。珍しく早く着いた。幸先良いぞ！いざ出発。

8月12日
６：３０のトロリーバスで黒部ダムへ。
ゆっくりダムを見学してから７：３０出発、予定通り１１：３０平ノ渡し着。
１２：００いつもの通りに船長はトローリングをしながらゆるりゆるりと船を走らせる。以前より上流側に木組みの船着場が出来ていた。

１３：００　バックウォーターから入渓。水量は非常に多い。いきなりスクラム渡渉。ロボット小屋の先が進めず、ザイル渡渉で小屋に上がり登山道を東沢谷へ行く。

１４：００東沢出合着。東沢谷から本流に出る。田中さんはここから釣りをしながら遡上。私と志満さんが先に行き今日のＢＰ作り。流れが速いので、熊ノ沢を越えた黒部川左岸に決め整地中に田中さん合流。水量が増えたら危ないからと熊ノ沢対岸の高台に移動する。
１５：００熊ノ沢出合対岸の高台にてツェルトを張った。田中さんが釣り上げた虎の子の岩魚の塩焼きを大事に食べ眠りに就く。明日の天気予報は良くない。天気の早期回復を願うのみ。

8月13日
７:００発。朝から小雨がぱらついているが、水量は増えていないようだ。遡行には影響ない？水量の多い本流をスクラムやザイル渡渉を繰り返す。途中でスクラム渡渉中に上流にいた私が滑り怪我をした左足の膝を大岩に痛打する。左足に力が入らない。仲間に支えられ何とか乗り切れたが痛い。やばい。以降スクラム渡渉時は下流側にしてもらった。渡渉を繰り返し下の黒ビンガ到着。８：４７。更に進み、口元ノタル沢出合到着。９：５１。リーダーに偵察してもらうが、対岸に渡ることも泳ぐことも全く不可能で高巻くしかない。

本流と口元ノタル沢の間のリッジを登り、枝尾根で５m懸垂、後トラバース気味に登ると本流の見えるところに出る。見ると増水が始まっていてとても近づけそうに無く更に高巻きを続ける。次の枝尾根から懸垂を繰り返し、途中まで降りたが目標にしていた立木の前に深い窪が有り近づけず登り返した。結局、少し戻って沢筋を降り１５m懸垂で本流へ。
そこは口元ノタル沢のわずか１００m上流だった。この高巻きに４時間。今回は４０mザイル１本だったので苦労した。ここの高巻きは４０mザイル 2 本有ると選択肢が増えて容易である。
高巻き中に対岸に４人パーティーが見えた。次の渡渉が出来ず諦めて対岸へテントを張ったようだ。しかし、逃げ場のない場所であり危険。
しかし、我々も降りたところから上流へ進めず、アングルハーケンを 1 本打ってザイル渡渉を試みたが、激しい水圧にハーケンが抜けトップが激流に飲まれた※。10m ほど下流の大石に泳ぎ着いたトップを救出して事なきを得た。
対岸に渡ることは不可能と判断して更に高巻

くことにした。途中、高度感のあるいやらしいザレを、ザイルを出して慎重に通過し、クライムダウンで漸く安全な廊下沢出合下流の本流右岸台地に着いた。雨はすっかり本降りになっていた。この高巻きに１．５時間。半日以上高巻いた。今日は焚き火もなし。ツエルトの中でガスコンロで暖をとる。

※　脆い岩の間にアングルを打ち込んだが最後まで打っても周りが壊れるような岩で有ったにも拘らず、体重と水圧程度なら（衝撃荷重が無ければ）大丈夫だろうと安易に判断したことが大きな反省点である。また、激流に揉まれて浮き沈みしている間にザイルが足に絡み付いて自由が拘束された事、そのザイルが体を本流筋に引き込もうとする事からザイル渡渉失敗時の危険性を再認識しなければならない。

8 月 14 日
夜中まで続いた雨も朝には上がり、好天が期待できたが水位が高く動けそうに無い。昼まで様子を見て、決めようと思ったが行けても中ノタル沢までだろうと判断し、1 日停滞することにした。野澤の左膝もどんどん腫れ上がっていた。痛くはないが思うように曲がらない。

すっかり天気は良くなり、濡れた物を乾かしたりしていた。昼頃、昨日追い越した４人パ

ーティーが上がってきた。４人の内１人がザックを背負っていないので不思議に思っているとすぐ下の渡渉で流されザックを流出したので、これからスゴ沢を目安にエスケープする予定とのこと。更にのんびりしていると、１５：００頃に２人パーティーが対岸から右岸側に渡渉ポイントを探してウロウロしている。白い運動靴とおどけたようなその顔は以前当会に所属していた高橋君とそのパートナー山本君だった。

ザイル渡渉のためのザイルを３回投げてバイルとザイルの一部を失って４回目にして漸く成功。彼らも我々のすぐ下にツェルトを張った。久しぶりの再会に乾杯する。

8 月 15 日　今日も快晴。６：００出発。
昨日より減水したといっても平年よりはかなり多く、前回（2000 年）よりも 20cm 位水位が高いように感じる。リーダーの判断で、立石まで５人パーティーで行くことにした。５人のスクラムでも渡渉ポイントはかなり限定され、時々遡行不能となる。

ザイル渡渉数え切れず、頭からの飛び込み＋クロール３回を繰り返して漸く赤牛沢下トロに着いた。
トロと言いながらも流れはありそう。ここは右岸を泳ぐしかない。リーダーは先ほどから泳ぎで体が冷え切っていたせいか盛んに誰かトップを行くようにと言ってくるが、最後の奥の窪が上れそうにない。しかも流れが速く辿り着けたとしても本流の強い流れに戻されそうであり、泳ぎと登攀技術が求められる。皆俯く。またまたリーダーにお願いすることになった。泳ぎの得意なリーダーも、２０ｃｍ進んでは１５ｃｍ戻されるほど流れが強く、必死で泳いでも奥の窪に入れそうに無く、手前の壁に上がって休憩。このまま上がってトラバース出来そうなのでトライすると行けた。後続はザックにつかまって引っ張ってもらう。リーダー申し訳ない！

朝６時過ぎに出発して岩苔小谷出合到着１４：３０（本当は赤牛沢出合だった）。今宵は高天原温泉で過ごすぞ！と、大休憩後１５：００よりいざ高天原温泉へ岩苔小谷と勘違いして赤牛沢を上り始めた。途中、GPS 確認しても「合ってると思います」で登ること 1 時間３０分。地形と標高が合わず再確認の結果間違いが…。
立石に戻って、岩苔小谷出合着１８：００。ここまでで１２時間。疲れ果て岩苔小谷出合を今宵の宿とした。

8 月 16 日　６：００発。
高橋パーティーも立石から先へ行くのは諦め、一緒に行動することになった。岩苔小谷も水が多くしかも意外と登り難い。高巻く唯一の滝、大滝の高巻きはガラガラのガレとズルズルのザレとボロボロの岩登りで時間が掛かる。「今日中に湯俣まで」の計画はすぐに崩れてしまった。

大滝を越えると困難なところは無く、11 時に高天原温泉に着いた。せっかくだからと湯船につかる。疲れた体に最高のプレゼントだ。今日の泊場を三俣山荘キャンプ場と決め、高天原山荘から岩苔乗越を経て三俣山荘へ。
ここまでの疲れか、体に力が入らず、足が上がらずヘロヘロになって漸く山荘へ。
１８：００着。今日も１２時間行動だった。疲れ切り風邪気味のリーダーは、小屋泊まりで安静をとる。明日は下山。残りのツマミで最後の晩餐を楽しむ。

8 月 17 日　７：００発
伊藤新道は沢屋にとってはフミアトも明確で比較的歩きやすい道だった。北鎌尾根や硫黄尾根の展望が素晴らしく、観光的な気分になってしまう。

しかし、伊藤新道は崩壊激しい赤沢手前で事実上消滅してしまう。

湯俣川も水量が多く、スイスイとは進まない。渡渉が厳しいところではザックを浮き袋にしてラッコスタイルで泳ぐ。

崩壊地の下降に懸垂していると下流に人の姿が見える。ここまで来ればもう安心と一気に肩の力が抜けるのが判った。湯俣温泉までは後１時間とのこと。途中に湧いている熱いお湯に触って、噴気を嗅いでみたり、美しい奇岩に見とれたりしながらすっかり観光客になって湯俣「清嵐荘」に着いた。１５：００着。

清嵐荘で沢支度を解く。先に高瀬ダムへ向かう２人パーティーへ、後５人行きますからとタクシーに伝えてくださいとお願いする。
１５：３０出発。最後の長い高瀬ダムまでの道のりを歩く。１８：００高瀬ダム着。何とタクシーが２台近づいてくる。さっきの人がしっかり伝えてくれていた。感謝！これで２００９年夏合宿が無事に終わってホッとした気分となる。タクシーで七倉ダムまで行き、後は山本さんの車で扇沢の車の回収に向かう。大町温泉郷で温泉に入り、高橋パーティーと分かれる。不思議な縁に驚きながらも、楽しい遡行が出来て感謝だ！
野澤の終電が危ないので、急いで家路へ向かった。

水量が多く大変だったが、印象に残る素晴らしい遡行だった。次回はもっと穏やかな水量の頃にのんびり再訪してみたい。